



Menettes of Nagoya Y's Men's Club

6月メネット例会ごあんない

と き：2010年6月19日(土) 12:00~
ところ：ローズコートホテル 日本料理「比翼」
地下鉄 上前津1番出口すぐ

6月はメネット総会です。美味しい食事をしながら、今年度の反省をします。出欠を加藤(052)764-7411までご連絡ください。

メネット例会レポート

と き：2010年5月22日(土)
ところ：さふらん生活園

今月のメネット会は「さふらん生活園」のさふらん祭りへの参加になりました。

私は2年程欠席したので行き方がおぼつかなくて加藤(朱)メネットをお誘いして上前津で待ち合わせして頂きました。着いてみるともう屋外も屋内も人々でごった返し、私達は食堂で座って周りを見ていました(例年作って販売していたフルーツポンチも作らないし……)。

やがて1人2人と集まって来たメネットが5人になったところで腰をあげ今日出来る仕事の一つお買い物に出か

けることに。なんと安い100円単価のものが大半。みな夢中で何かないかと夢中で何かないかと探し廻っている。いくら安いからと品物が上下ひっくり返ったり、くしゃくしゃになっていたりを見ていたら出品して下さった方に申し訳のない気になって思わず整理をしている自分に気づいたものでした。お昼はやっと見つけた机に5人集まってそれぞれに買ったお昼を分けあって食べながら、おしゃべり会となりました。

抽選券で見事2等を当ててパック1ヶ月分を当てた伊左治メネットの1ヶ月後のもっと美しくなった顔がたのしみ!!とメネット会の50年の祝いの会どうでしょうか?話の中でどなたにお声をかけたらいいかなと云っているなか、なつかしいあの方、この方を思い出して活躍して下さった頃の事を思い出しました。おしゃべりの最中に加藤(邦)メネットがかけつけて下さって、またお話しが盛り上がりました。周りのテーブルにあんなに多くいた人々は殆どいなくなっているのに気づいて散会となりました。毎日子どもたちに接して下さる方々がそれを助けて活躍している人々でさふらんも成長しているとみました。鈴木メンがいらしゃった当時の事を思い出しました。皆さんご苦労様そして元気で頑張ってくださいと祈りつつ、「参加することに意義がある」というオリンピックの言葉を思い出しつつ帰途に着きました。

(尾関静枝)

『フイズメンの賢い話』(No170)

『教会の始まり』

「今年は5月23日(日)が教会の始まりを記念するペンテコステだったのだよ。」「そうか。クリスマスやイースターなら何となく分かるけど、ペンテコステって何なの。」「教会にとっては、クリスマスとイースターと同じく重要な日なのだよ。日本語では聖霊降臨日と言うのだよ。イエスさまが十字架にかかって死なれて、三日目に復活されて、弟子たちが集まっていた所にしばしば現れたのだけど、昇天されてからはしばらく現れなかったのだよ。そこで、弟子たちとイエスさまと一緒に生活していた婦人たちが、ある家の二階の部屋で一つになってお祈りしていたのだよ。それ

が、教会の始まりなのだよ。イエスさまが復活されてから50日目のペンテコステの日に、そこに天から聖霊が降臨されたのだよ。それで、聖霊降臨日というのだよ。」「そうか。だけど、聖霊って何なの?」「聖霊は目に見えないので分かりにくいところがあるけど、要するに神さまから与えられたイエスさまの働きを意味しているのだよ。その働きで一番素晴らしいことは、弟子たちが中心になって、聖霊の助けと導きによって、教会が世界中に広がったということだよ。常識では、元漁師であった人が多い平凡な弟子たちには出来ないことだよ。そこに神さまから与えられたイエスさまの働きである聖霊の働きを見ることが出来るのだよ。」「そうか。そこに、教会の始まりを記念するペンテコステの意味があるのだね。」 (寺田仁計)

■■■ 第1例会レポート ■■■

とき 2010年5月11日(火)18:00~20:30
ところ 名古屋YMCA

5月の第一例会は、プラスワン例会として行われた。この例会は、会員メンバーが友人や知人を最低一人誘い合い、ワイズメンズクラブのことを広く知ってもらう、できれば新入会員につながる機会にしようと企画されたもので、区、部の方針に従って実施された。中部では名古屋クラブが初めて取り組むものでした。

ゲストスピーカーは、久保田五十一氏。氏は、ご承知のごとくスポーツ用品メーカーミズノで著名なプロ野球選手のバットの製作にあたる方で、マイスターの称号をもつ。最近の選手でいえば、イチロー選手や松井選手のバットを手がけている素晴らしい方である。

いつもより30分早く午後6時からメンバーだけの第一部をまず行った。ワイズソング、聖書朗読と祈禱、諸報告などを簡単にすませた後、私は、メンバーの誘いで来られるゲストたちを3階のエレベーター前で出迎える役割を担当していた。本番第二部開始の午後7時15分ほど前だったろうか、会場へお越しの五十一氏は、プロのスポーツ選手顔負けの引き締まった体、何か人並み外れたことを成し遂げた人だけが発するようなオーラを放っている。それでいて、腰が低い、



人なつこさを感じさせてくれる笑顔に、緊張いっぱいのはかえってもじもじとなってしまった。

メインである第二部の司会は、EMC 主査としてこのプラスワン例会の実現に力を注いだ渡辺メンである。簡単に趣旨説明をし、久保田メンと五十一氏の対談形式でメインプログラムはすすめられた。五十一氏が手をかけたイチロー選手をはじめプロ野球名選手のバットやアオタモの原木などが正面横に飾られ、参加者たちは触ったり、振ったりの実感も味わった。出入口横には、一流のプロ野球選手たちの活躍するシーンの写真パネルや往年の名選手が使用したバットの写真も飾られ、まるで、生でテレビ中継でもみているかのような錯覚を覚えるほどの舞台設定であり、二人のやりとりであった。

久保田メンが発する質問への答えは、野球好きには堪らないほど歴史を刻んだ名選手の逸話も多く、参加者のなかの野球はあまり興味がないという方々も興味津々に聞き入っていた。最後に五十一氏は、今の教育のあり方に苦言を呈し、もっと自分のやりたいことや興味が仕事へつながるような、そんな社会風土に変わっていかねばと話され、じっくりとそんな教育論も聞きたかった。

あっという間に予定の時間が過ぎ、心地よい余韻を遺して幕を閉じた。今回準備に携わったメンバーに心からの感謝とエールを送りたい。

(谷川 修)

■■■ 第2例会レポート ■■■

とき 2010年5月18日(火)19:00~20:15
ところ 名古屋YMCA

1. CS 事業 恒例「潮干狩り」の件 6/26 (土)

- キリスト教社会館のスタッフにおいていただき打ち合わせを実施。
- 会場は昨年同様「乙方海岸」。雨天時の実施判断は7時までに社会館でしていただき→谷川メン→小尾メン→ワ

イズメンバー連絡

- 費用は一律1人800円のディスカウント価格で小尾メン交渉済。人数はキリスト教社会館関係で200名組+YMCAパレットキッズ+名古屋ワイズ
- 当日の干潮時間に合わせて開始10時(簡単な始まりの集い)、12時半頃(交流の)集い、頃合いを見て解散。
- 社会館スタッフ先発隊の現地到着時間は9:00頃でテント設営を行う。

ワイズメンは8:30に喫茶店「ベスパ」に集合。区大会で作成した「青のポロシャツ」を着用のこと。参加メンバーは6月第2例会で確認。

- YMCA パレットキッズも参加予認。
2. 6月例会プログラム
- 塩田メンの所属する東海メールクワイアーが、バチカンのサンピエトロ大聖堂で聖歌を歌われたので「バチカンの響く日本語聖歌」(仮題)で卓話を頂く。
 - DVD 上映準備。当日みなでグレゴリオ聖歌を歌うなどの企画は長井メンと塩田メンで相談。
3. 鳥居一良賞の設定について
- 名古屋ワイズに対して長年貢献された方に、感謝の意味を込めてメン又はメネットに差し上げる賞としたい。
 - 文字・言葉あそびの名人の鳥居さんにちなんでユーモアに富んだ受賞理由があってもよい。
 - 差し上げたい人が居た場合のみ5～6月頃の第二例会などで検討し7月例会でお渡しする。
4. 行事関係
- (1)横浜国際大会と西日本区大会の参加者が少ないので例会で参加を呼びかける。
- (2)5月プラスワン例会
- 良い会であったが反省・総括して今後のEMC活動に繋げる必要がある。
 - 来て頂いた人へのお礼と、その後の行事への勧誘を行うべき。

- 反省会を5/26 19時より
- (3)EMC活動について 渋谷次期部長、下村次期EMC主査より方針提示と依頼あり。
- 方針：各クラブ プラスワン例会を3回行い2名以上の会員増を図る。
- 第1例会の何度かをプラスワン例会としてゲストを呼ぶと考えれば良いのでは。
 - ゲストを呼べる充実した内容の例会にすることと、メンバーがゲストを熱心に誘うことの両方が必要。
 - 単に第1例会をプラスワン例会とするだけでは形骸化する。
 - 名古屋クラブは例会3回、会員増強5名で依頼に対して回答する。
- (4)次期環境・地域奉仕担当メンバーへ。次期環境・地域奉仕の中部主査である成瀬さんからメールがいく。
- (5)折鶴ランへの支援の取り組み
- 6/10(土) 中部役員引継ぎ会に合わせてYMCAに到着予定。
- (6)成瀬さんの西日本区理事就任に合せて役員等配慮必要。
2010/7～2013/6
- (7)街頭募金6/6(日)10時YMCA集合、13時三越前集合。
(渡辺真悟)

.....

今月の聖句

そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上へ手を置いて言った。「兄弟サウロ、あなたがここに来る途中に現われてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。」すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。

使徒言行録9：17～18

西村 清

最近、しばしば新聞等で目にする言葉に「目からうろこ」というのがあります。この言葉は知っていても、上の聖書のことばから採られたものだということを知っている人は少ないかもしれません。

サウロ、後にパウロと呼ばれるようになるのですが、小さな地域のユダヤ教から生まれたキリスト教を世界に広めた立役者ということが出来る人物です。彼は当時の若いインテリで、ユダヤ教のエリートで、盛んになってくるキリスト教を押しさえ込むための、いわばユダヤ教の責任者でした。クリスチャンを捕らえては牢にぶち込み、あるいは殺していた人物

でした。

ところが、エルサレムから少し離れたダマスコに、クリスチャンたちを捕らえようとして向かっていた時、光に打たれて、突然倒れ、目が見えなくなってしまいます。それは復活のイエス・キリストの働きであったのです。とにかく彼は人々に手を引かれてダマスコに入ります。

一方、ダマスコにいたアナニアというイエスの弟子が幻の中で、サウロという人物を訪ねるように主イエスから言われます。アナニアはサウロを訪ね、その頭に手を置いた時(按手と言い、神の仕事をする時に受ける。牧師はこの按手を受けて初めて牧師になる)、サウロの目から「うろこのようなもの」が落ち、目が見えるようになったと記されています。これは聖霊(神の霊)を受けて、見えなかったものが見えるようになった、物事の真相や本質が見えるようになった、ということを表わしています。

名前もパウロと改められ、クリスチャンを激しく迫害していたサウロが、今度はキリスト教を全世界に広めるために働くパウロに変えられたという、そのきっかけになった時の言葉が「目からうろこ」というわけです。

.....

ハッピーバースデー

メン
6月12日 渡辺 真悟君
17日 長井 潤君

メネット
6月22日 平野 愛子さん
30日 水谷 道子さん